

# 高梁川流域キッズ

たかはしがわりゆういき

高梁川流域ゆかりの

いじん けんじん とくしゅう

偉人・賢人特集



活躍した年:

1764~1828年



活躍した分野:

国学者



ゆかりのある場所:

・福地のツバキ



にしばやし こっきょう  
西林 國橋

新見市

高梁市

総社 早倉 矢井 浅里 笠  
市 島 敷 掛 原 口 庄 岡  
市 町 市 町 市 町 市



にしばやしこっきょう めいわがん ねんいまたかはししおちあいちようふくち かんぬし にしばやしげんぼただもり じなん  
西林國橋は、明和元（1764）年今の高梁市落合町福地の神主、西林玄蕃忠盛の次男として生まれました。

こっきょうせいねんき しんどう こくがく まな あと きょうと で こくがく まな  
國橋は青年期に神道や国学を学んだ後、京都へ出て国学を学びました。

ぶんかがん ねん ききょう あと はは せいか ひなむら げんざい なりわちようかみひな  
文化元（1804）年に帰郷した後に、母の生家であった日名村（現在の成羽町上日名）

しんかん つと きんざい こども こくがく おし こっきょう おか  
で神官を務めるとともに、近在の子供たちに国学を教えていました。國橋はかねてから、岡  
やまけん びっちゅうちく のうそん えん こうじんかくら きほんてきな げいのうようそ  
山県の備中地区の農村で演じられていた荒神神楽が、基本的な芸能要素だけではつまらない

かん こくがく そよう と い こじき にほんしよき だいざい もと えんげき  
と感じていたため、国学の素養を取り入れて『古事記』や『日本書紀』に題材を求めた演劇

ふう しんわげきそうさく と く たんじょう だいじゃたいじ いわとびら くにゆず  
風の神話劇創作に取り組みました。そうして誕生したのが「大蛇退治」、「岩戸開き」、「国譲り」

さんべん こうせい じんだいかぐら  
の三編で構成した「神代神楽」です。

こっきょう きそ つく じんだいかぐら こ かぐらめん いしよう うつく きそ  
國橋が基礎を創った神代神楽は、その後、神楽面と衣裳のはなやかさや美しさを競うよう

きょうどげいのう びっちゅうかくら だいひょう  
にもなり、郷土芸能としての備中神楽を代表するものになりました。